

令和 8 年度
肉用子牛保証基準価格等
算定要領及び説明参考資料

令和 7 年 12 月
畜 産 局

令和8年度
肉用子牛保証基準価格等算定要領及び説明参考資料
目 次

算定要領	頁
I. 保証基準価格	1
1. 基準価格（P ₀ ）の計算	2
2. 生産コストの変化率（I）の計算	2
3. 市場取引価格換算係数（mとk）の計算	3
4. 品種格差係数（D）の計算	3
II. 合理化目標価格	4
1. 輸入牛肉価格（C）の計算	5
2. 關税率及び諸経費率（T）の計算	5
3. 品質格差係数（Q）の計算	5
4. 肥育牛換算係数等（uとv、W）の計算	5
5. 肥育に要する合理的な費用の額（G）の計算	5
6. 市場取引価格換算係数（mとk）の計算	6
7. 品種格差係数（D）の計算	6

参考資料

I . 保証基準価格	頁
1 . 肉用子牛の保証基準価格	7
2 . 基準期間の生産費調査を基礎とした価格 (P0) の計算	9
3 . 生産コストの変化率 (I) の計算	12
4 . 市場取引価格換算係数 (m と k) の計算	19
5 . 品種格差係数 (D) の計算	19
II . 合理化目標価格	
1 . 肉用子牛の合理化目標価格	20
2 . 輸入牛肉価格 (C) の計算	23
3 . 関税率及び諸経費 (T) の計算	23
4 . 品質格差係数 (Q) の計算	24
5 . 肥育牛換算係数等 (u と v、W) の計算	24
6 . 肥育に要する合理的な費用の額 (G) の計算	25
7 . 市場取引価格換算係数 (m と k) の計算	25
8 . 品種格差係数 (D) の計算	26

令和 8 年度
肉用子牛保証基準価格等算定要領

I . 保証基準価格

保証基準価格については、次の 5 種の品種区分を算定する。

- ・ 黒毛和種 　・ 褐毛和種 　・ その他の肉専用種 　・ 乳用種 　・ 交雑種

肉用子牛の保証基準価格の算定に当たっては、平成 23 年度から平成 29 年度の 7 年間の支払利子・地代算入生産費を基礎とする。当該生産費については、小規模な肉用子牛経営の実態を踏まえつつ、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針（以下「酪肉近」という。）で示している近代化を促進する方向に沿ったものに補正する。乳用種及び交雑種のもと畜費については、更に乳用種価格の算定の見直しを行った平成 17 年度以降 13 年間の平均値に補正する。

保証基準価格は、これらの補正を行った生産費を基準価格（P0）とし、これに生産コストの変化率（I）を乗じ、市場取引価格換算係数（m と k）を加味し、肉専用種（和子牛）については更に品種格差係数（D）を乗ずることにより算出する。

$$P = \{ (P0 \times I) \times m + k \} \times D$$

P : 令和 8 年度保証基準価格

P0 : 平成 23 年度～平成 29 年度の 7 年間の支払利子・地代算入生産費の平均値をベースに、酪肉近で示している近代化を促進する方向に沿ったものに補正した生産費（乳用種及び交雑種は、更に平成 17 年度以降 13 年間のもと畜費で補正）

I : 基準期間（平成 23 年度～平成 29 年度）に対する令和 8 年度の生産費の変化率

m と k : 肉用子牛（和子牛、乳用種及び交雑種）の農家庭先販売価格と市場取引価格との一次回帰関係から求めた係数及び定数

D : 黒毛和種子牛と褐毛和種子牛の市場取引価格の加重平均値と、肉用子牛（黒毛和種、褐毛和種、その他の肉専用種）の市場取引価格との格差から求めた係数（品種格差係数）

1. 基準価格（P0）の計算

① 和子牛（黒毛和種、褐毛和種、その他の肉専用種）

平成30年の平均飼養頭数は14.6頭であるが、9頭以下の農家数が全体の6割強あることに鑑み、全規模層の生産費のうち労働費を、平均飼養頭数が含まれる「10頭以上層」の平均労働費に置換する。

基準期間の出荷月齢は9.30ヶ月、分娩間隔は13.31ヶ月であるが、酪肉近の経営指標（平成37年度に出荷月齢8.0ヶ月、分娩間隔12.5ヶ月）の達成に向けた平成31年度の到達値（出荷月齢8.95ヶ月、分娩間隔12.99ヶ月）で補正した生産費とする。

② 乳用種

基準価格算定期（平成30年）の平均飼養頭数は226.8頭であり、和子牛と同様、全階層の労働費を当該頭数が含まれる「200頭以上層」の平均労働費に置換する。また、もと畜費については、平成17年度から平成29年度の13年間の平均値とする。

基準期間の出荷月齢は6.93ヶ月であるが、酪肉近の経営指標（平成37年度に出荷月齢7.0ヶ月）の達成に向けた平成31年度の到達値（出荷月齢6.71ヶ月）で補正した生産費とする。

③ 交雑種

基準価格算定期（平成30年）の平均飼養頭数は106.7頭であり、和子牛と同様、全階層の労働費を当該頭数が含まれる「100頭以上層」の平均労働費に置換する。また、もと畜費については、乳用種と同様、平成17年度から平成29年度の13年間の平均値とする。

基準期間の出荷月齢は7.84ヶ月であるが、酪肉近の経営指標（平成37年度に出荷月齢7.0ヶ月）の達成に向けた平成31年度の到達値（出荷月齢7.63ヶ月）で補正した生産費とする。

2. 生産コストの変化率（I）の計算

平成23年度から平成29年度までの生産費から物価変動率を除いた費用の平均値に、平成23年度から平成29年度までの物価指数の平均値を乗じた値を分母とし、平成30年度から令和6年までの生産費から物価変動率を除いた費用のトレンドや直近の経済事情（穀物相場、為替等）を踏まえて推計した令和8年度の生産費を分子として算出する。

3. 市場取引価格換算係数（mとk）の計算

① 和子牛（黒毛和種、褐毛和種、その他の肉専用種）

直近7年間（平成30年11月から令和7年10月まで）における和子牛の農家庭先販売価格と市場取引価格（黒毛和種・褐毛和種の加重平均価格）との一次回帰関係から算出する。

② 乳用種

直近7年間（平成30年11月から令和7年10月まで）における乳用種雄子牛の農家庭先販売価格と市場取引価格との一次回帰関係から算出する。

③ 交雑種

直近7年間（平成30年11月から令和7年10月まで）における交雑種子牛の農家庭先販売価格と市場取引価格との一次回帰関係から算出する。

4. 品種格差係数（D）の計算

直近7年間（平成30年11月から令和7年10月まで）における黒毛和種子牛と褐毛和種子牛の市場取引価格の加重平均値と和子牛（黒毛和種、褐毛和種、その他の肉専用種）の品種毎の市場取引価格との格差から算出する。

II. 合理化目標価格

合理化目標価格については、次の5種の品種区分を算定する。

- ・黒毛和種　・褐毛和種　・その他の肉専用種　・乳用種　・交雑種

肉用子牛の合理化目標価格は、過去10年間の平均輸入牛肉価格（C）に関税率及び諸経費率（T）を乗じた価格と、輸入牛肉と国産牛肉との価格差（Q）を基に算出した輸入牛肉対抗価格（1kg当たりの価格）をベースとして算出する。

具体的には、輸入牛肉対抗価格を基に換算係数（uとv）を用いて肥育牛の農家庭先販売価格（1kg当たりの価格）を算出し、肥育牛の出荷体重（W）を乗じて、輸入牛肉に対抗できる肥育牛の価格を算定する。その上で当該価格から肥育に必要な合理的な費用（G）を控除して肥育農家の子牛購入価格を算出した上で、これに市場取引価格換算係数（mとk）を加味し、和子牛については更に品種格差係数（D）を乗することにより算出する。

$$P = \langle\langle [\{ (C \times T \times Q) \times u + v \} \times W - G] \times m + k \rangle\rangle \times D$$

P : 合理化目標価格

C : 輸入牛肉価格

T : 1 + 関税率及び諸経費率

Q : 輸入牛肉の部分肉価格と去勢肥育和牛、乳用雄肥育牛及び交雑種肥育牛それぞれの部分肉価格との比率（品質格差係数）

u と v : 国産牛肉の部分肉価格と肥育牛の農家庭先販売価格との一次回帰関係から求めた係数及び定数

W : 肥育牛の出荷体重

G : 肥育に要する合理的な費用の額

m と k : 肉用子牛（和子牛、乳用種及び交雑種）農家購入価格と市場取引価格との一次回帰関係から求めた係数及び定数

D : 黒毛和種子牛と褐毛和種子牛の市場取引価格の加重平均値と肉用子牛（黒毛和種、褐毛和種、その他の肉専用種）の市場取引価格との格差から求めた係数（品質格差係数）

1. 輸入牛肉価格 (C) の計算

直近 10 年間（平成 27 年 11 月から令和 7 年 10 月まで）における豪州産及び米国産牛肉の冷蔵品・冷凍品それぞれの平均輸入価格を、直近 1 年間（令和 6 年 11 月から令和 7 年 10 月まで）における輸入量比率でもって加重平均価格（ドルベース）を算定し、これに直近 5 年間（令和 2 年 11 月から令和 7 年 10 月まで）における為替相場（ドル円）の平均値を乗することにより算出する。

2. 関税率及び諸経費率 (T) の計算

算定年度の翌年度の関税率（現時点で令和 9 年度に想定される関税率、米国：20.0%、豪州：20.0%）、諸経費率（17%。うち輸入諸掛率 7%、消費税率 10%）から算出する。

3. 品質格差係数 (Q) の計算

直近 7 年間（平成 30 年 11 月から令和 7 年 10 月まで）における輸入牛肉の部分肉価格（豪州産牛肉及び米国産牛肉の加重平均価格）に対する、直近 7 年間（平成 30 年 10 月から令和 7 年 9 月まで）における国産牛肉の部分肉価格の比率を、去勢肥育和牛、乳用雄肥育牛及び交雑種肥育牛それぞれに算出する。

4. 肥育牛換算係数等 (u と v、W) の計算

去勢肥育和牛、乳用雄肥育牛及び交雑種肥育牛それぞれについて、直近 7 年間（平成 30 年 11 月から令和 7 年 10 月まで）における 1 kg 当たりの部分肉価格と、1 kg 当たりの農家庭先販売価格との一次回帰関係から算出する (u と v)。1 頭当たりの農家庭先販売価格は、1 kg 当たりの農家庭先販売価格に、1 頭当たりの出荷体重 (W) を乗ずることにより算出する。

5. 肥育に要する合理的な費用の額 (G) の計算

令和 6 年生産費調査を基に合理化を織り込んだ「去勢若齢肥育牛生産費」、「乳用雄肥育牛生産費」及び「交雑種肥育牛生産費」それぞれについて、もと畜費以外の費目について、令和 6 年の物価変動率を除いた値に、直近 3 ヶ月の物価指数の平均値を乗じて算出する。

6. 市場取引価格換算係数（mとk）の計算

① 和子牛（黒毛和種、褐毛和種、その他の肉専用種）

直近7年間（平成30年11月から令和7年10月まで）における和牛肥育農家の子牛購入価格と市場取引価格（黒毛和種・褐毛和種の加重平均価格）との一次回帰関係から算出する。

② 乳用種

直近7年間（平成30年11月から令和7年10月まで）における乳用種肥育農家の子牛購入価格と市場取引価格との一次回帰関係から算出する。

③ 交雑種

直近7年間（平成30年11月から令和7年10月まで）における交雑種肥育農家の子牛購入価格と市場取引価格との一次回帰関係から算出する。

7. 品種格差係数（D）の計算

Iの4と同じである。

令和 8 年度
肉用子牛保証基準価格等算定説明参考資料

I . 保証基準価格

1 . 肉用子牛の保証基準価格

(1) 算式

$$P = \{ (P_0 \times I) \times m + k \} \times D$$

P : 令和 8 年度保証基準価格

P₀ : 平成 23 年度～平成 29 年度の 7 年間の支払利子・地代算入生産費の平均値をベースに、酪肉近で示している近代化を促進する方向に沿ったものに補正した生産費（乳用種及び交雑種は、更に平成 17 年度以降 13 年間のもと畜費で補正）

I : 基準期間（平成 23 年度～平成 29 年度）に対する令和 8 年度の生産費の変化率

m と k : 肉用子牛（和子牛、乳用種及び交雑種）の農家庭先販売価格と市場取引価格との一次回帰関係から求めた係数及び定数

D : 黒毛和種子牛と褐毛和種子牛の市場取引価格の加重平均値と、肉用子牛（黒毛和種、褐毛和種、その他の肉専用種）の市場取引価格との格差から求めた係数（品種格差係数）

(2) 試算 (基準期間 7 年、単位：円／頭)

$$P_w = \{ (501,162 \times 1.142) \times 1.047 + 126 \} \times 1.001 (\text{黒毛和種})$$

$$\times 0.913 (\text{褐毛和種})$$

$$\times 0.581 (\text{その他の肉専用種})$$

$$572,327 \text{ 円}$$

$$599,352 \text{ 円}$$

$$599,951 \text{ 円}$$

$$547,208 \text{ 円}$$

$$348,224 \text{ 円}$$

$$= 600,000 \text{ 円/頭 (黒毛和種)}$$

$$= 547,000 \text{ 円/頭 (褐毛和種)}$$

$$= 348,000 \text{ 円/頭 (その他の肉専用種)}$$

$$P_d = 150,916 \times 1.123 \times 1.015 + 2,331$$

$$169,479 \text{ 円}$$

$$174,352 \text{ 円}$$

$$= 174,000 \text{ 円/頭 (乳用種)}$$

$$P_f = 254,216 \times 1.054 \times 1.012 + 3,232$$

$$267,944 \text{ 円}$$

$$274,391 \text{ 円}$$

$$= 274,000 \text{ 円/頭 (交雑種)}$$

2. 基準期間の生産費調査を基礎とした価格（P0）の計算

（1）和子牛

(単位：円／頭)

年度	支払利子 地代算入 生産費	現状値 (基準期間)			補正值 (近代化の促進)			採用値
		労働費	出荷 月齢	分娩 間隔	労働費 (繁殖雌 牛10頭飼 養規模以 上層)	出荷月齢 (31年度達 成値)	分娩間隔 (31年度達 成値)	
23	507,682	173,732	9.5	13.3	146,046	8.95	12.99	472,942
24	510,333	171,291	9.4	13.4	148,560	8.95	12.99	480,741
25	529,058	171,023	9.3	13.5	148,347	8.95	12.99	499,221
26	535,084	170,272	9.1	13.0	147,844	8.95	12.99	505,688
27	533,249	172,642	9.1	13.3	152,415	8.95	12.99	505,569
28	544,237	183,290	9.4	13.2	159,098	8.95	12.99	512,074
29	561,774	185,902	9.3	13.5	163,966	8.95	12.99	531,902
平均	531,631		9.30	13.31				501,162

(注) 支払利子・地代算入生産費及び現状値は、「畜産物生産費（農林水産省）」による。

(2) 乳用種子牛

(単位：円／頭)

年度	支払利子 地代算入 生産費	現状値 (基準期間)			補正值 (平準化、近代化の促進)			採用値
		もと畜費	労働費	出荷 月齢	もと畜費 (13ヶ年 平均)	労働費 (200頭飼 養規模以 上層)	出荷月齢 (31年度達 成値)	
17	—	52,520	—	—	—	—	—	—
18	—	48,320	—	—	—	—	—	—
19	—	49,088	—	—	—	—	—	—
20	—	30,533	—	—	—	—	—	—
21	—	30,034	—	—	—	—	—	—
22	—	29,735	—	—	—	—	—	—
23	136,337	44,012	10,243	7.0	54,325	8,021	6.71	147,125
24	130,253	37,061	9,666	6.8	54,325	7,216	6.71	145,446
25	145,360	46,525	9,802	6.9	54,325	7,538	6.71	149,912
26	155,369	50,622	9,881	7.1	54,325	7,198	6.71	153,155
27	164,723	58,911	10,499	7.1	54,325	8,294	6.71	159,166
28	212,049	112,465	9,341	6.8	54,325	6,594	6.71	153,585
29	212,934	116,405	11,257	6.8	54,325	8,330	6.71	148,020
平均	165,289	54,325		6.93				150,916

(注) 支払利子・地代算入生産費及び現状値は、「畜産物生産費（農林水産省）」による。

(3) 交雑種子牛

(単位：円／頭)

年度	支払利子 地代算入 生産費	現状値 (基準期間)			補正值 (平準化、近代化の促進)			採用値
		もと畜費	労働費	出荷 月齢	もと畜費 (13ヶ年 平均)	労働費 (100頭飼 養規模以 上層)	出荷月齢 (31年度達 成値)	
17	—	139,783	—	—	—	—	—	—
18	—	156,533	—	—	—	—	—	—
19	—	141,074	—	—	—	—	—	—
20	—	99,008	—	—	—	—	—	—
21	—	101,007	—	—	—	—	—	—
22	—	120,230	—	—	—	—	—	—
23	254,074	149,616	14,898	7.8	153,385	12,988	7.63	251,218
24	220,221	118,218	15,492	7.7	153,385	12,398	7.63	248,117
25	255,122	142,902	15,880	7.7	153,385	11,215	7.63	257,019
26	281,307	165,626	15,722	7.8	153,385	11,240	7.63	260,282
27	288,054	175,626	14,609	8.1	153,385	10,945	7.63	257,207
28	331,835	225,898	14,445	7.7	153,385	10,437	7.63	251,484
29	367,386	258,486	15,293	8.1	153,385	13,056	7.63	254,183
平均	285,428	153,385		7.84				254,216

(注) 支払利子・地代算入生産費及び現状値は、「畜産物生産費（農林水産省）」による。

3. 生産コストの変化率（I）の計算

（1）算式

$$I = \Sigma q_1 p_1 / \Sigma q_0 p_0$$

q_0 : 基準期間の生産費における各費目の実質費用
(円／頭)

q_1 : 価格算定年度の生産費における各費目の実質費用
(円／頭)

p_0 : 基準期間の各費目に対応する物価指数
(令和2年 = 100)

p_1 : 最近時の各費目に対応する物価指数
(令和2年 = 100)

（2）試算

$$I = \frac{6\ 1\ 4, \ 9\ 8\ 7}{5\ 3\ 8, \ 5\ 8\ 9} = 1.142 \text{ (和子牛)}$$

$$I = \frac{1\ 7\ 4, \ 2\ 5\ 2}{1\ 5\ 5, \ 1\ 2\ 7} = 1.123 \text{ (乳用種)}$$

$$I = \frac{2\ 8\ 2, \ 0\ 5\ 9}{2\ 6\ 7, \ 6\ 8\ 4} = 1.054 \text{ (交雑種)}$$

(3) 算出基礎

ア 和子牛

○ $\Sigma q_0 p_0$ 、 $\Sigma q_1 p_1$ の計算

費目	q 0 (円)	p 0	q 1 (円)	p 1	q 0 p 0 (円)	q 1 p 1 (円)
労 働 費	169, 182	103. 7	178, 884	98. 7	175, 442	176, 559
飼料費	218, 029	-	227, 138	-	208, 648	280, 745
流通飼料費計	150, 029	-	153, 129	-	142, 688	206, 736
牧草放牧採草費	68, 000	97. 0	74, 009	100. 0	65, 960	74, 009
敷料費	8, 674	96. 2	7, 355	122. 6	8, 344	9, 017
光熱水料動力費	8, 392	103. 9	11, 607	115. 0	8, 719	13, 348
その他の諸材料費	628	97. 0	1, 001	100. 0	609	1, 001
獣医師・医薬品費	21, 728	97. 0	22, 168	100. 0	21, 076	22, 168
賃借料料金	12, 884	97. 0	11, 356	100. 0	12, 497	11, 356
物件税・公課諸負担	8, 548	100. 0	8, 835	100. 0	8, 548	8, 835
建物費	16, 380	91. 4	14, 716	140. 3	14, 971	20, 647
自動車費	6, 332	96. 6	2, 671	115. 6	6, 117	3, 088
農具費	10, 972	96. 6	16, 040	115. 6	10, 599	18, 542
生産管理費	1, 554	97. 0	2, 226	100. 0	1, 507	2, 226
種付料	20, 756	97. 0	19, 870	100. 0	20, 133	19, 870
繁殖めす畜償却費	61, 957	95. 5	62, 498	95. 2	59, 169	59, 498
費用合計	566, 016	-	586, 365	-	556, 379	646, 900
副産物計	26, 649	-	42, 279	-	27, 185	42, 083
生 産 費	539, 367	-	544, 086	-	529, 194	604, 817
支払利子	1, 754	100. 0	1, 887	100. 0	1, 754	1, 887
支払地代	7, 641	100. 0	8, 283	100. 0	7, 641	8, 283
支払利子・地代算入生産費	548, 762		554, 256		538, 589	614, 987

(流通飼料費と副産物価額の内訳)

費目	q 0 (円)	p 0	q 1 (円)	p 1	q 0 p 0 (円)	q 1 p 1 (円)
流通飼料費計	150, 029	-	153, 129	-	142, 688	206, 736
麦類	437	93. 4	222	139. 7	408	310
ふすま	3, 400	95. 3	1, 915	130. 7	3, 240	2, 503
配合飼料	95, 383	94. 7	98, 068	137. 9	90, 328	135, 236
稻わら	9, 331	96. 2	5, 982	122. 6	8, 976	7, 334
その他	41, 478	95. 8	46, 942	130. 7	39, 736	61, 353
副産物計	26, 649	-	42, 279	-	27, 185	42, 083
労働費	20, 064	103. 7	33, 193	98. 7	20, 806	32, 761
稻わら	1, 139	96. 2	1, 046	122. 6	1, 096	1, 282
その他	5, 446	97. 0	8, 040	100. 0	5, 283	8, 040

イ 乳用種子牛

○ $\Sigma q_0 p_0$ 、 $\Sigma q_1 p_1$ の計算

費目	q 0 (円)	p 0	q 1 (円)	p 1	q 0 p 0 (円)	q 1 p 1 (円)
労 働 費	9,738	103.7	10,387	98.7	10,098	10,252
飼料費	71,369	-	65,796	-	67,801	88,940
流通飼料費計	68,914	-	63,203	-	65,420	86,347
牧草放牧採草費	2,455	97.0	2,593	100.0	2,381	2,593
敷料費	7,020	96.2	7,540	122.6	6,753	9,244
光熱水料動力費	2,399	103.9	2,856	123.1	2,493	3,516
その他の諸材料費	68	97.0	11	100.0	66	11
獣医師・医薬品費	6,157	97.0	7,615	100.0	5,972	7,615
賃借料料金	1,143	97.0	731	100.0	1,109	731
物件税・公課諸負担	840	100.0	788	100.0	840	788
建物費	2,602	91.4	1,394	140.3	2,378	1,956
自動車費	664	96.6	788	115.6	641	911
農具費	1,824	96.6	1,223	115.6	1,762	1,414
生産管理費	185	97.0	144	100.0	179	144
もと畜費	117,257	48.2	70,267	75.7	56,518	53,192
費 用 合 計	221,266	-	169,540	-	156,610	178,714
副産物計	2,473	-	5,094	-	2,443	5,076
生 产 费	218,793	-	164,446	-	154,167	173,638
支払利子	817	100.0	438	100.0	817	438
支払地代	143	100.0	176	100.0	143	176
支払利子・地代算入生産費	219,753		165,060		155,127	174,252

(流通飼料費と副産物価額の内訳)

費目	q 0 (円)	p 0	q 1 (円)	p 1	q 0 p 0 (円)	q 1 p 1 (円)
流通飼料費計	68,914	-	63,203	-	65,420	86,347
麦類	0	93.4	0	139.7	0	0
ふすま	6	95.3	0	130.7	6	0
配合飼料	54,632	94.7	51,964	137.9	51,737	71,658
稲わら	142	96.2	5	122.6	137	6
その他	14,134	95.8	11,234	130.7	13,540	14,683
副産物計	2,473	-	5,094	-	2,443	5,076
労働費	658	103.7	1,539	98.7	682	1,519
稲わら	8	96.2	8	122.6	8	10
その他	1,807	97.0	3,547	100.0	1,753	3,547

ウ 交雑種子牛

○ $\Sigma q_0 p_0$ 、 $\Sigma q_1 p_1$ の計算

費目	q 0 (円)	p 0	q 1 (円)	p 1	q 0 p 0 (円)	q 1 p 1 (円)
労 働 費	14,647	103.7	13,296	98.7	15,189	13,123
飼料費	78,574	-	71,067	-	74,665	95,597
流通飼料費計	77,332	-	67,357	-	73,460	91,887
牧草放牧採草費	1,242	97.0	3,710	100.0	1,205	3,710
敷料費	5,415	96.2	4,289	122.6	5,209	5,258
光熱水料動力費	3,067	103.9	4,217	122.0	3,187	5,145
その他の諸材料費	44	97.0	236	100.0	43	236
獣医師・医薬品費	5,461	97.0	5,597	100.0	5,297	5,597
賃借料料金	580	97.0	574	100.0	563	574
物件税・公課諸負担	925	100.0	746	100.0	925	746
建物費	2,557	91.4	1,806	140.3	2,337	2,534
自動車費	1,109	96.6	1,125	115.6	1,071	1,301
農具費	1,516	96.6	2,602	115.6	1,464	3,008
生産管理費	363	97.0	215	100.0	352	215
もと畜費	203,175	78.2	158,704	97.0	158,883	153,943
費 用 合 計	317,433	-	264,474	-	269,185	287,277
副産物計	2,738	-	6,313	-	2,720	6,279
生 产 费	314,695	-	258,161	-	266,465	280,998
支払利子	1,131	100.0	746	100.0	1,131	746
支払地代	88	100.0	315	100.0	88	315
支払利子・地代算入生産費	315,914		259,222		267,684	282,059

(流通飼料費と副産物価額の内訳)

費目	q 0 (円)	p 0	q 1 (円)	p 1	q 0 p 0 (円)	q 1 p 1 (円)
流通飼料費計	77,332	-	67,357	-	73,460	91,887
麦類	0	93.4	15	139.7	0	21
ふすま	13	95.3	77	130.7	12	101
配合飼料	56,920	94.7	53,895	137.9	53,903	74,321
稲わら	513	96.2	380	122.6	494	466
その他	19,886	95.8	12,990	130.7	19,051	16,978
副産物計	2,738	-	6,313	-	2,720	6,279
労働費	952	103.7	2,792	98.7	987	2,756
稲わら	4	96.2	7	122.6	4	9
その他	1,782	97.0	3,514	100.0	1,729	3,514

4. 市場取引価格換算係数（mとk）の計算

(1) 算式

$$Y = mX + k$$

Y : 肉用子牛（黒毛和種・褐毛和種の加重平均、乳用種及び交雑種）の市場取引価格※1頭当たり

X : 肉用子牛（和子牛、乳用種及び交雑種）の農家庭先販売価格
※1頭当たり

mとk : 肉用子牛（和子牛、乳用種及び交雑種）の農家庭先販売価格
と市場取引価格との一次回帰関係から求めた係数及び定数

(2) 試算

$$Y_w = 1.047X + 126 \quad (\text{和子牛})$$

$$Y_d = 1.015X + 2,331 \quad (\text{乳用種})$$

$$Y_f = 1.012X + 3,232 \quad (\text{交雑種})$$

5. 品種格差係数（D）の計算

(1) 算式

$$D = p_w / p_{br}$$

p_w : 肉用子牛（黒毛和種、褐毛和種、その他の肉専用種）の市場取引価格※1頭当たり

p_{br} : 黒毛和種子牛と褐毛和種子牛の市場取引価格の加重平均値
※1頭当たり

(2) 試算

$$D = 1.001 \quad (\text{黒毛和種})$$

$$0.913 \quad (\text{褐毛和種})$$

$$0.581 \quad (\text{その他の肉専用種})$$

II. 合理化目標価格

1. 肉用子牛の合理化目標価格

(1) 算式

$$P = \langle\langle [\{ (C \times T \times Q) \times u + v \} \times W - G] \times m + k \rangle\rangle \times D$$

P : 合理化目標価格

C : 輸入牛肉価格

T : 1 + 関税率及び諸経費率

Q : 輸入牛肉の部分肉価格と去勢肥育和牛、乳用雄肥育牛及び交雑種肥育牛それぞれの部分肉価格との比率（品質格差係数）

u と v : 国産牛肉の部分肉価格と肥育牛の農家庭先販売価格との一次回帰関係から求めた係数及び定数

W : 肥育牛の出荷体重

G : 肥育に要する合理的な費用の額

m と k : 肉用子牛（和子牛、乳用種及び交雑種）農家購入価格と市場取引価格との一次回帰関係から求めた係数及び定数

D : 黒毛和種子牛と褐毛和種子牛の市場取引価格の加重平均値と肉用子牛（黒毛和種、褐毛和種、その他の肉専用種）の市場取引価格との格差から求めた係数（品種格差係数）

(2) 試算 (単位 : 円／頭)

$$P_w = \langle \{ \{ (1,219.14 \times 2.40) \times 0.401 + 135.89 \} \times 812.4 - 578,795 \}$$

2,925.94 円

$$\times 0.934 + 4,051.18 \rangle$$

1,309.19 円

484,791 円

456,846 円

= 456,846 円 / 頭 (和子牛)

$$456,846 \times 1.001$$

= 457,303 円 / 頭 457,000 円 / 頭 (黒毛和種)

$$456,846 \times 0.913$$

= 417,100 円 / 頭 417,000 円 / 頭 (褐毛和種)

$$456,846 \times 0.581$$

= 265,428 円 / 頭 265,000 円 / 頭 (その他の肉専用種)

$$P_d = \langle \{ \{ (1,219.14 \times 1.21) \times 0.159 + 352.48 \} \times 757.0 - 340,717 \}$$

1,475.16 円

$$\times 1.141 + 378.99 \rangle$$

587.03 円

103,665 円

118,661 円

= 118,661 円 / 頭 119,000 円 / 頭 (乳用種)

$$P_f = \langle\langle [\{ (1, 219.14 \times 1.65) \times 0.224 + 370.51 \} \times 836.0 - 483, 906]$$

$$2,011.58 \text{ 円}$$

$$821.10 \text{ 円}$$

$$202,534 \text{ 円}$$

$$\times 1.060 + 1,140.96 \rangle\rangle$$

$$215,827 \text{ 円}$$

$= 215,827 \text{ 円/頭}$ $216,000 \text{ 円/頭 (交雑種)}$

2. 輸入牛肉価格 (C) の計算

(1) 算式

$$C = \{ (\text{豪州産冷凍品輸入価格} \times \text{同シェア}) + (\text{豪州産冷蔵品輸入価格} \times \text{同シェア}) \times \text{豪州シェア} \\ + (\text{米国産冷凍品輸入価格} \times \text{同シェア}) + (\text{米国産冷蔵品輸入価格} \times \text{同シェア}) \times \text{米国シェア} \} \times \text{外国為替相場}$$

(2) 試算

$$C = \{ (\$ 5.56 \times 0.614 + \$ 7.75 \times 0.386) \times 0.572 \\ + (\$ 5.64 \times 0.623 + \$ 8.66 \times 0.377) \times 0.428 \} \times 135.55 \\ = \$ 6.565 \times 135.55 \\ = 889.89 \text{ 円／kg}$$

3. 関税率及び諸経費 (T) の計算

$$T_1 = 1 + 0.200 + 0.17 = 1.370 \text{ (豪州)}$$

$$T_2 = 1 + 0.200 + 0.17 = 1.370 \text{ (米国)}$$

$$\begin{aligned} \text{※ } C \times T &= \{ (\text{豪州産冷凍品輸入価格} \times \text{同シェア}) \\ &\quad + (\text{豪州産冷蔵品輸入価格} \times \text{同シェア}) \times T_1 \times \text{豪州シェア} \\ &\quad + (\text{米国産冷凍品輸入価格} \times \text{同シェア}) + (\text{米国産冷蔵品輸入価格} \times \text{同シェア}) \times T_2 \times \text{米国シェア} \} \times \text{外国為替相場} \\ &= \{ (\$ 5.56 \times 0.614 + \$ 7.75 \times 0.386) \times 1.370 \times 0.572 \\ &\quad + (\$ 5.64 \times 0.623 + \$ 8.66 \times 0.377) \times 1.370 \times 0.428 \} \times 135.55 \\ &= \$ 8.994 \times 135.55 \\ &= 1,219.14 \text{ 円／kg} \end{aligned}$$

4. 品質格差係数 (Q) の計算

(1) 算式

$$Q = \frac{\text{国産牛肉の部分肉価格}}{(豪州産冷凍部分肉価格} \times \text{同シェア} + \text{豪州産冷蔵部分肉価格} \\ \times \text{同シェア}) \times \text{豪州シェア} \\ + (\text{米国産冷凍部分肉価格} \times \text{同シェア} + \text{米国産冷蔵部分肉価格} \\ \times \text{同シェア}) \times \text{米国シェア}$$

(2) 試算

$$Q = \frac{4,327 \text{ (去勢肥育和牛)} , 2,176 \text{ (乳用雄肥育牛)} , 2,983 \text{ (交雑種肥育牛)}}{(1,362 \times 0.614 + 1,881 \times 0.386) \times 0.572 \\ + (1,924 \times 0.623 + 2,463 \times 0.377) \times 0.428} \\ = 2.4 \text{ (去勢肥育和牛)} , 1.21 \text{ (乳用雄肥育牛)} , 1.65 \text{ (交雑種肥育牛)}$$

5. 肥育牛換算係数等 (u と v, W) の計算

(1) 算式

$$Y = (u \times X + v) \times W$$

Y : 去勢肥育和牛、乳用雄肥育牛及び交雑種肥育牛の農家庭先販売価格

X : 去勢肥育和牛、乳用雄肥育牛及び交雑種肥育牛の部分肉価格

W : 出荷体重

(2) 試算

$$Y_w = (0.401 \times X_w + 135.89) \times 812.4 \quad (\text{去勢肥育和牛}) \\ Y_d = (0.159 \times X_d + 352.48) \times 757.0 \quad (\text{乳用雄肥育牛}) \\ Y_f = (0.224 \times X_f + 370.51) \times 836.0 \quad (\text{交雑種肥育牛})$$

6. 肥育に要する合理的な費用の額 (G) の計算

(1) 算式

$$G = \Sigma (q_0 \times p_1)$$

q_0 : 令和 6 年の肥育に要する合理的な費用の額（全算入生産費からもと畜費を控除）における各費目の実質費用

p_1 : 各費目に対応する最近時の物価指数
(令和 2 年 = 100)

(2) 試算

$$G_w = 578,795 \text{ (去勢肥育和牛)}$$

$$G_d = 340,717 \text{ (乳用雄肥育牛)}$$

$$G_f = 483,906 \text{ (交雑種肥育牛)}$$

7. 市場取引価格換算係数 (m と k) の計算

(1) 算式

$$Y = mX + k$$

Y : 肉用子牛（黒毛和種・褐毛和種の加重平均、乳用種及び交雑種）の市場取引価格※1頭当たり

X : 肉用子牛（和子牛、乳用種及び交雑種）の肥育農家の購入価格※1頭当たり

m と k : 肉用子牛（和子牛、乳用種及び交雑種）の農家購入価格と市場取引価格との一次回帰関係から求めた係数及び定数

(2) 試算

$$Y_w = 0.934 \times X_w + 4,051.18 \text{ (和子牛)}$$

$$Y_d = 1.141 \times X_d + 378.99 \text{ (乳用種)}$$

$$Y_f = 1.060 \times X_f + 1,140.96 \text{ (交雑種)}$$

8. 品種格差係数 (D) の計算

(1) 算式

$$D = p_w / p_{br}$$

p_w : 肉用子牛（黒毛和種、褐毛和種、その他の肉専用種）

の市場取引価格※ 1頭当たり

p_{br} : 黒毛和種子牛と褐毛和種子牛の市場取引価格の加重平均値
※ 1頭当たり

(2) 試算

$D = 1.001$ (黒毛和種)

0.913 (褐毛和種)

0.581 (その他の肉専用種)